

0歳児の保護者等を対象とした 麻しん対策事業のご案内

～ 赤ちゃんを麻しん感染から守るために ～

港区では、定期予防接種を受けられない0歳児を麻しんの感染から守るため、その保護者等の麻しん予防対策を実施します。0歳児と同居する保護者等を対象に、下記の条件を満たす方に対して、麻しんの抗体検査及び抗体価が低かった人への麻しん風しん混合(MR)ワクチン等の接種費用を一部助成します。

《対象者》

【抗体検査】

受診日現在、19歳以上の港区民で、0歳児と同居する保護者等(同居人を含む)
ただし、次の人を除く

- ・過去に麻しんの抗体検査を受けたことがある人
- ・明らかに麻しんの予防接種歴がある人
- ・麻しんのり患歴がある人(検査で確定診断を受けた麻しんの既往歴がある人)

【予防接種】

接種日現在、19歳以上の港区民で、0歳児と同居する保護者等(同居人を含む)のうち麻しんの抗体価が低い人(本事業以外の過去に受けた抗体検査において、麻しん抗体価が低かった人も対象とします。)

ただし、次の人を除く

- ・明らかに麻しんの予防接種歴がある人
- ・麻しんのり患歴がある人(検査で確定診断を受けた麻しんの既往歴がある人)

予防接種の助成対象となる抗体価

PA法:256倍未満、EIA法(IgG):16.0未満

《助成額》

【抗体検査】 無料 (全額助成します。)

【予防接種】

① 麻しん風しん混合(MR)ワクチン 6,000円(上限)

② 麻しん(単独)ワクチン 3,000円(上限)

※予防接種については、一部助成となります。各医療機関で定めているワクチン接種料金から助成金額(6,000円又は3,000円)を差し引いた金額をお支払ください。

※お支払いいただく接種料金は医療機関によって異なります。

《助成回数》 「抗体検査」「予防接種」それぞれ1回のみ

《助成期間》 令和8年4月1日～令和9年3月31日

《実施場所》 港区麻しん風しん混合(MR)ワクチン任意接種助成等実施医療機関(名簿同封)

《持参するもの》

【抗体検査】 ・「麻しん抗体検査受診票」(水色)

・港区民であることがわかる物(マイナンバーカードや健康保険証等)

【予防接種】 ・「麻しん風しん混合ワクチン/麻しん単抗原ワクチン任意予防接種予診票」(水色)※

・港区民であることがわかる物(マイナンバーカードや健康保険証等)

・麻しんの抗体価が低いことがわかる物(麻しん抗体検査結果等)

※この事業は、本人の意思で接種するかどうかを決める「任意接種」になります。

必要に応じて医師とよく相談いただいたうえで、予防接種の必要性や接種の有無をご判断ください。

※この事業の受診票(水色)を使用して指定医療機関で抗体検査をした後、同じ医療機関で予防接種を受ける人は、保健所に再申込は不要です。(別の医療機関で予防接種を希望する場合は、再申込が必要)

『予防接種予診票』(水色)は、医療機関に置いてありますので、そちらを使用し接種してください。

麻疹の抗体検査及び予防接種を希望される方へ

1 麻疹の症状について

○ 麻疹

麻疹(はしか)は、麻疹ウイルスの空気感染・飛沫感染・接触感染によって発症します。ウイルスに感染後、無症状の時期(潜伏期間)が約 10～12 日続きます。その後症状が出始めますが、主な症状は、発熱、せき、鼻汁、めやに、赤い発しんです。症状が出はじめてから3～4日は 38℃前後の熱とせきと鼻汁、めやにが続き、一時熱が下がりかけたかと思うと、また 39～40℃の高熱となり、首すじや顔などから赤い発しんが出はじめ、その後発しんは全身に広がります。高熱は3～4日で解熱し、次第に発しんも消失しますが、しばらく色素沈着が残ります。

合併症を引き起こすことが 30%程度あり、主な合併症には、気管支炎、肺炎、中耳炎、脳炎などがあります。発生する割合は麻疹患者 100 人中、中耳炎は約7～9人、肺炎は約6人です。脳炎は約 1,000 人に 1 人の割合で発生がみられます。

また、麻疹にかかると数年から 10 数年経過した後に亜急性硬化性全脳炎(SSPE)という重い脳炎を発症することがあります。これは、麻疹にかかった者のうち約 10 万人に1人の割合で見られます。

麻疹(はしか)にかかった人のうち、1,000 人に 1 人程度の割合で死亡することがあります。

2 予防接種の効果と副反応について

予防接種を受けた人のうち、95%以上が免疫を獲得することができます。体内に免疫ができると、麻疹や風しんにかかることを防ぐことができます。

ただし、予防接種により、軽い副反応がみられることがあります。また、極めて稀ですが、重い副反応がおこることがあります。予防接種後にみられる反応としては、下記のとおりです。

① 麻疹ワクチンの主な副反応

(麻疹の予防接種のみを実施するときに使用)

主な副反応は、発熱、発しん、じんましん、紅斑などが認められています。稀に生じる重い副反応としては、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)や急性血小板減少性紫斑病(100 万人に1人程度)が報告されています。

② 麻疹風しん混合(MR)ワクチンの主な副反応

(麻疹と風しんの予防接種を同時に実施するときに使用、通常、このワクチンを接種します。)

主な副反応は、発熱や、発しんです。これらの症状は、接種後5～14日の間に多くみられます。接種直後から翌日に過敏症状と考えられる発熱、発しん、掻痒(かゆみ)などがみられることがありますが、これらの症状は通常1～3日でおさまります。ときに、接種部位の発赤、腫れ、硬結(しこり)、リンパ節の腫れ等がみられることがありますが、いずれも一過性で通常数日中に消失します。

稀に生じる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状(ショック症状、じんましん、呼吸困難など)、急性血小板減少性紫斑病(紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血等)、脳炎及びけいれん等が報告されています。

3 予防接種による健康被害救済制度について

予防接種は感染症を防ぐために重要なものですが、極めてまれに健康被害の発生がみられます。

万が一、被接種者に健康被害が生じたときは、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法と特別区自治体総合賠償責任保険に基づく救済の対象となる場合があります。

4 接種に当たっての注意事項

予防接種の実施においては、体調の良い日に行うことが原則です。健康状態が良好でない場合には、かかりつけ医等に相談の上、接種するか否かを決めてください。

また、以下の状態の場合には予防接種を受けることができません。

- ① 明らかに発熱(通常 37.5℃以上をいいます)がある場合
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
- ③ 受けるべき予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある場合
- ④ 明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する場合及び免疫抑制をきたす治療を受けている場合
- ⑤ 現在、妊娠している場合
- ⑥ その他、医師が不適当な状態と判断した場合

【問合せ】 予防接種予診票コールセンター 電話 03-6400-0094
みなと保健所 保健予防課 保健予防係
住所 〒108-8315 港区三田1丁目4番10号
電話 03-6400-0081 / FAX 03-3455-4460